

福岡商工会議所 令和6年度事業報告

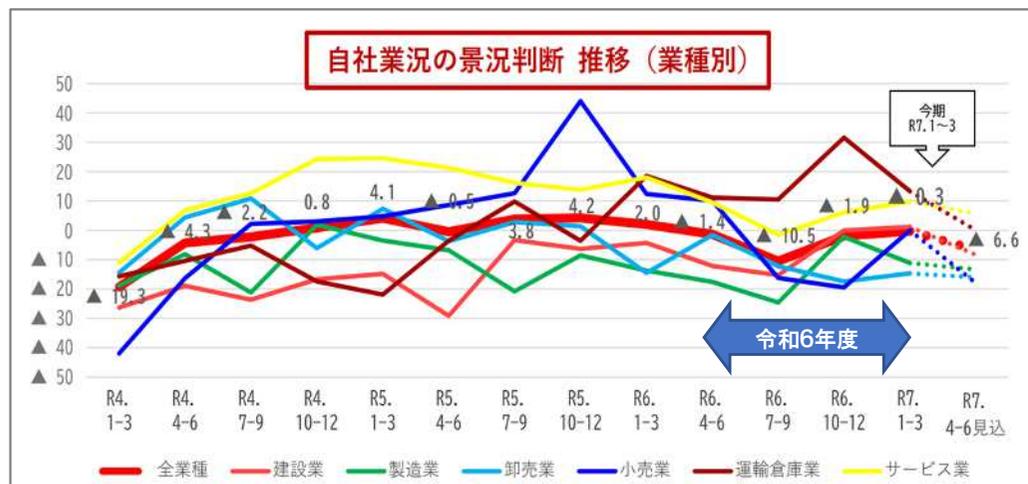
【令和6年度の概況】

- 令和6年度の福岡経済は、円安を背景としたインバウンド需要の拡大により、博多港・福岡空港における外国人入国者数（令和6年）が約390万人と過去最高を更新するなど、明るい動きが見られた。また、当所が実施している経営動向調査でも、景況判断が2期連続で小幅ながら改善し、回復の兆しが窺えた。
- しかしながら、多くの中小企業は、人手不足やエネルギー・原材料価格の高止まりが重くのしかかり、厳しい経営環境が続いている。特に人手不足については、当所調査（令和7年3月）によると、回答者の半数（50.0%）が「人材難・求人難」を経営課題としてあげており、その深刻さが浮き彫りになった。加えて、物価上昇により収益が圧迫される中、45.9%の企業が「業績の改善を伴わない防衛的賃上げ」を余儀なくされており、人材確保と経営安定の両立に苦慮している実態も明らかになった。

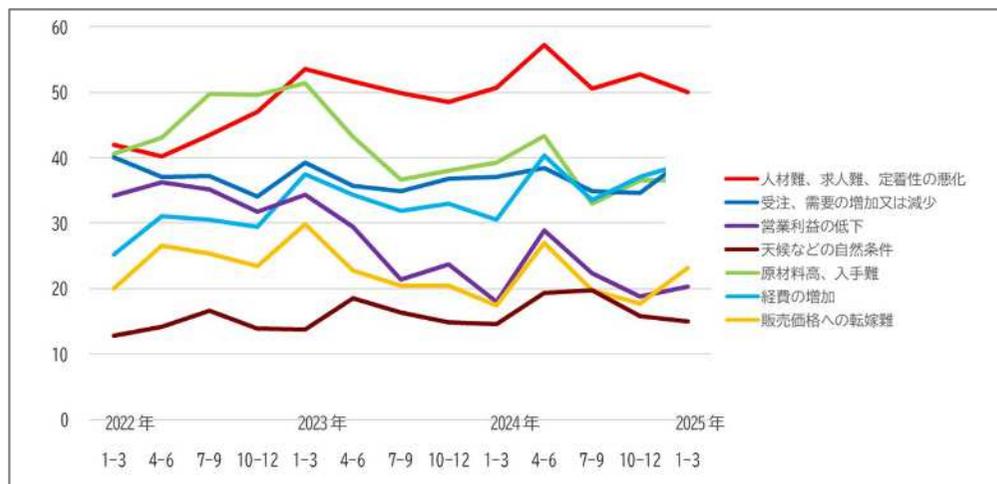
こうした中で、中小企業が直面するもう一つの課題が、増加したコストを適正に価格へ転嫁すること。当所調査では、価格転嫁率はBtoBで49.7%、BtoCで45.9%に留まり、コスト上昇分の半分も転嫁できていない状況にある。

福岡商工会議所 経営動向調査より

【自社業況の景況判断推移（業種別） 令和7年1-3月期】

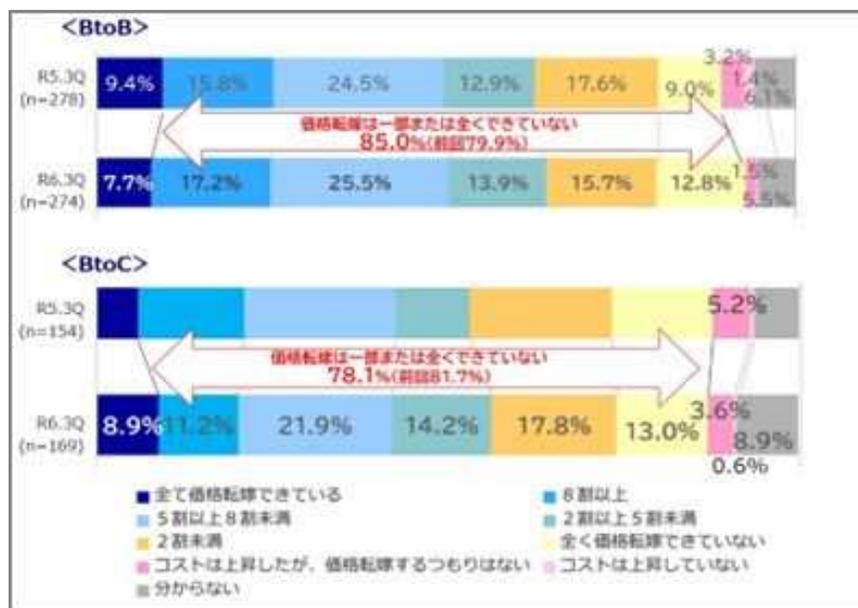


【経営上の問題点の推移 上位7項目】



- 中小企業が抱える課題は、人手不足への対応、賃上げ、デジタル化、生産性向上など多岐にわたるが、これらは密接に関連しており、こうした課題に対応するには、まずは適正価格での取引（価格転嫁）によりその原資を確保することが重要である。こうした認識のもと、「取引適正化の推進」を重点施策に掲げ事業を展開した。
- 事業者への経営支援においては、経営指導員や専門家等により約2万5千件の相談に対応。価格転嫁支援に加え、デジタル化や人材育成、販路拡大など中小企業の「自己変革」を後押しする伴走支援に注力した。さらに、会員企業同士の交流促進やビジネス機会の創出を図るため、年間132回の交流会を開催した。
- また、「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」（令和6年3月設置）の運営をはじめ、歴史・文化など地域資源の活用を通じた地域の魅力向上にも積極的に取り組んだ。

【価格転嫁の状況（BtoB・BtoC別）】



【事業承継セミナー】



【福商ビジネス倶楽部 20周年祝賀会】



【新入会員 異業種交流会】



【観光マッチング】



1. 取引適正化の推進

- 専門家による「取引適正化推進相談窓口」を新たに開設し、価格転嫁支援ツールの活用法や取引先との価格交渉の方法等についてアドバイスした。加えて、会員企業を対象としたセミナー・講演会を開催した。
- 取引上の課題や価格転嫁の実態を把握するため、アンケートや経営指導員によるヒアリングを行った。
- 国・行政に対し、宣言企業へのインセンティブ付与、公共工事・公共調達における適正取引に対する監視強化などを提言・要望した。

〔主な取組み〕

(1) 「取引適正化推進相談窓口」の開設

*令和6年5月、事業者の価格交渉力向上や円滑な価格転嫁の実現を目的に、福岡県よろず支援拠点と連携して「取引適正推進相談窓口」を開設。窓口利用者数：43社

(2) 国・行政等への提言・要望

*国・県・市に対し、「パートナーシップ構築宣言」宣言企業へのインセンティブ付与や公共調達における取引適正化の徹底・監視強化など取引適正化のために必要な施策を提言・要望した

(3) 事業者向けセミナー及び講演会の開催

*令和6年7月10日：福岡市内に拠点を有する各業種団体の代表者等（小規模企業振興委員）向け価格転嫁セミナーを実施。15名参加
令和7年3月21日：特別講演会「今“ココ”にある物流危機 第3弾」を実施。運輸事業者、荷主企業の担当者など約300名参加

(4) 中小企業の取引実態の調査

*事業者への巡回訪問や窓口を通じて、約250社に取引実態をヒアリング調査した
*令和6年12月、会員企業約2,000社を対象にコスト増加に伴う価格転嫁の状況について調査を実施し公表

【取引適正化推進相談窓口及びオンライン説明会】



【特別講演会の開催】



【価格転嫁の実態調査】



2. デジタル化・DXの推進

- デジタル化による業務効率化や生産性向上にチャレンジする中小企業を支援するため、デジタル化支援イベントを2回開催。デジタルツールの展示やセミナー、相談会を行い、延べ882名が来場した。
- 中小企業・小規模事業者にデジタルツールの提案や導入支援・フォロー等を行う「YOKA-DIGI」（よかデジ）や専門家による個別相談を通じて、171件のデジタル実装を支援。中小企業の現場や課題に即したデジタル推進を後押しした。
- 販路開拓に向けたDX推進を集中的に支援するプログラム「販路開拓IT支援パッケージ事業」を13社を対象に展開。うち9社が前年対比5%の売上増を達成した。

〔主な取組み〕

(1) デジタルツールの展示・相談会の開催

- *FUKUOKA DIGITAL BOOST2024：令和6年11月26日開催。デジタルツールの展示会・個別相談会・セミナーを実施。来場者延べ456名
- *デジタル・DXマッチング：令和7年1月15、16日開催。観光事業者向けのデジタルツール展示会、相談会を実施。来場者延べ426名

(2) 福岡中小企業デジタル化・DX推進コンソーシアム「YOKA-DIGI」（よかデジ）による個別支援

- *民間ITベンダー3社と共同で、デジタル化の相談窓口を設置。相談数：321件
- *経理・会計や営業・顧客管理等のツールをもつITベンダー等34社と提携し、デジタルツールの「会員優待サービス」を提供
- *デジタルツール導入支援件数：171件（うち会計ソフト：108件、ウェブサイト関連：22件など）

(3) デジタル化・DX推進セミナー等の実施

- *販路開拓IT支援パッケージ事業：販路開拓のためDXを推進しようとする事業者13者に対し、専門家と連携しながら集中的に支援
- *デジタル化支援セミナー：年間8回、参加者合計489名

【FUKUOKA DIGITAL BOOST2024】



【デジタル・DXマッチング】



【よかデジのホームページ上でデジタルセミナーのアーカイブを公開】



3. 交流会活性化

4. 販路拡大支援

- 会員同士のネットワーク強化を図るため、新入会員交流会など各種交流会事業を実施。また、商談会やセミナー等においても参加者の交流機会を積極的に設け、企業同士のつながりや協業の促進を支援した。
- 食産業については、「Food EXPO Kyushu」や個別商談会などにより、BtoBの販路拡大支援を実施。加えて、オンラインマッチングシステムを活用して通年で商談機会を提供し、3,280件の商談を行った。また、「博多うまかもん市」や「流通センターまつり」などを実施し、BtoCの売上拡大を支援した。
- 観光関連産業については、「観光マッチング2025～観光de九州～」の開催や観光アドバイザーによる相談会を実施し、観光事業者の販路拡大や経営課題解決に向けた具体的な支援を行った。
- クリエイターと地場企業等とのマッチング機会を提供する「クリエイターマッチング」を実施。

〔主な取組み〕

(1) 会員相互の交流促進

*各種交流会事業や新年祝賀会、メンバーシップ制交流会、商談会・セミナーの参加者交流会等：開催回数 132回／参加者数 4,787名

(2) 食関連事業者の販路拡大支援

*「Food EXPO Kyushu 2024」：令和6年10月8、9日開催。291社・団体出展／4,804名来場（2日間）、商談件数2,433件

*オンラインマッチングシステム登録企業・団体731社、通年商談件数68件

*「第42回博多うまかもん市」：令和7年3月26～31日開催。57社が出店（うち新規20社）

(3) 観光事業者の販路拡大支援

*「観光マッチング2025～観光de九州～」：令和7年1月15、16日開催。バイヤー25社、セラー52社、商談件数447件

*観光アドバイザー相談会：令和6年12月6、9日開催。7社を支援

(4) クリエイターマッチング事業

*クリエイターマッチング：Food EXPO Kyushu及び観光マッチングとの併催。出展26社（者）、商談件数776件うち成約見込み50件

*クリエイター紹介特設サイト「クリエイターマッチングKyushu」：年間29社・名掲載／商談5件、成約3件

(5) 海外展開

*福商経済訪問団：令和6年11月9～16日実施／台湾、ベトナム（ハノイ）を訪問、15名が参加

*福岡ワンストップ海外展開相談窓口での相談件数：75件

*イタリア・バーリと福岡の4団体のMOU締結：令和6年11月27日（バーリ商工会議所、イタリア東洋商工会議所、当所、福岡貿易会）

【会員交流会】



【Food EXPO Kyushu 2024】



【クリエイターマッチング】



【イタリア・バーリ経済団体とのMOU】



5. 人材の確保・育成

- 中小企業が人材確保に苦慮している状況に対処するため、新卒採用を目指す会員を対象に、大学等の就職支援担当者との「就職情報交換会」を開催した。キャリア人材採用については、令和4年度に協定を締結した産業雇用安定センター福岡事務所と連携し、同センターが有するキャリア人材情報を当所ホームページで広く情報提供した。
- 福商実務研修講座や新たに開設した経営層向けカリキュラム「福商ハイクラス・ワークショップ」、企業に講師を派遣する「福商出前講座」などを通じて、会員企業の多様な研修ニーズに対応した人材育成支援を実施。これらの取組みにより、年間延べ1,721名の人材育成を支援した。
- キャリア教育の一環として、高校生を対象とした職場体験「locus」事業を通じ、地元企業への関心を高めてもらう機会を提供した。また、高校生から20代の社会人までの若年層を対象に、スタートアップ（起業）体験イベント「HAPPY CAN!P」を実施した。

〔主な取組み〕

(1) 学校と企業との就職情報交換会等による新卒人材採用支援

*学校と企業との就職情報交換会：令和7年2月4日実施。参加企業47社／参加校17校

(2) 福商実務研修講座や福商出前講座、検定試験棟による人材育成支援

*福商実務研修講座 53回、福商ハイクラス・ワークショップ 5回、福商出前講座 15回、東京商工会議所主催オンライン講座など、当所が提供する講座の総受講者は1,721名。検定試験 全19検定／総申込者 24,186名

(3) 若年層向けキャリア教育支援

*高校生向け職業体験「locus」：県内高校11校で実施。参加企業247社／参加学生3,110名

若年層向けスタートアップ体験「HAPPY CAN!P」：令和6年8月31日～9月1日開催。参加者4名

【学校と企業との就職情報交換会】



【高校生向け職業体験「locus」】



【スタートアップ体験「HAPPY CAN!P」】



6. 経営課題解決・再チャレンジ支援

- 中小企業・小規模事業者からの相談に対し、対話を重ねながら経営課題の本質を掘り下げ、事業者とともに解決策を見出す伴走型支援に注力した。特に、各種補助金などを活用して販路開拓や生産性向上に挑戦する意欲がある事業者に、自己変革に向けた事業計画策定を支援した。また、「事業承継診断シート」を活用した診断・相談を展開し、事業承継の円滑な推進に取り組んだ。
- 物価上昇等の影響を受ける事業者を下支えしつつ、地域の消費喚起と商店街の集客力向上を図るため、市内商店街等42団体に対して「プレミアム付き地域商品券」発行を支援し、地域活性化につなげた。

〔主な取組み〕

(1) 経営指導員等による窓口・巡回を通じた伴走型支援

*経営指導員・補助員による窓口・巡回を通じた相談・支援：22,098件（うち各種補助金や事業計画等の相談・策定支援件数：1,931件）

*専門相談員による相談指導：2,455件／専門家派遣：311件

(2) 福岡県事業承継・引継ぎ支援センターと連携した円滑な事業承継の支援

*税務記帳指導先や高齢経営者の事業者を中心に事業承継診断を449件実施。福岡県事業承継・引継ぎ支援センターに76社を繋げ具体的な取組みの着手を促した

(3) 商店街向けプレミアム付き地域商品券発行支援

*商店街等団体発行：総額30億9,340万円、42団体発行（うちキャッシュレス商品券33団体）

【経営指導員等による伴走支援】

年度	相談件数 (窓口、巡回、電話合計)
令和元年度(2019)	12,420件
令和2年度(2020)	32,888件
令和3年度(2021)	23,944件
令和4年度(2022)	19,001件
令和5年度(2023)	21,930件
令和6年度(2024)	22,098件

【補助金事業計画 策定支援実績】

- 小規模事業者持続化補助金：**136件**
- 事業再構築補助金：**16件**
- 事業承継・引継ぎ補助金：**2件**
- 経営革新計画承認申請件数：**34件**

【創業支援実績】

- 特定創業支援等事業（福岡市）支援数
158件
- 起業塾：年間2回開催
参加者38名中8名が起業

【福岡県事業承継・引継ぎ支援センターにおける事業承継支援の実績（福岡県全体）】

- 相談件数 **948件**
- 成約件数 **132件**（全国第2位）
（内訳）第三者承継 72件
親族承継 60件

1. 歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

- 令和5年度に公表した「福岡・博多の歴史・文化を活かしたまちづくりに関する15の提言」を踏まえ、令和6年3月に「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」を設置し、計6回の懇談会を開催した。また市民向けシンポジウムやアンケート等を通じて市民の関心と理解を深める活動を展開。12月には最終報告書を取りまとめ、福岡市に提出した。
- その他の提言についても、行政や関連団体、地元の関係者等と協議を継続し、実現に向けた課題の洗い出しや次年度に向けた具体的な取組みの検討を進めた。

〔主な取組み〕

(1) 「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」による福岡城天守復元に関する議論・機運醸成

- * 「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」を令和6年3月に設置。6年度には、第2回から第6回までの計5回を開催
- * 第4回懇談会（令和6年8月27日）では「福岡城天守の復元について考える市民フォーラム」を併せて開催。450名が参加
- * 12月に報告書を取りまとめ、市長に提言するとともに、記者会見を実施。

(2) 歴史・文化に関するデータベースの整備・充実とデジタル技術の活用

- * 福岡市観光情報サイト「よかナビ」の更改にあたり、歴史・文化財やイベント情報、周遊プラン、まち歩きや体験プログラム、福岡県の観光関連サイトとの連携など、必要な機能について提案

(3) 史跡等の点検と整備

- * 福岡市内の史跡・文化財の諸施設（説明板、駐車場、トイレ等）のうち、当所が21か所の点検・確認を実施

(4) 寺院の開放性を高めるため地道な働きかけ

- * 当所「観光委員会」で、寺町エリアでのイベント視察や寺院へのヒアリングを実施

(5) 浜辺などの自然を活かした休養地づくりに向けた活動

- * 福岡市や福岡県、九州運輸局などの行政及び市内の旅行会社やホテル等に対し、外国人のニーズやFAMトリップ誘致等についてヒアリングを実施

【今枝文科副大臣（当時）による福岡城視察】



【福岡城天守の復元について考える市民フォーラム】



【観光委員会 京都商工会議所との意見交換】



2. 福博の賑わい創出・魅力発信

3. 伝統芸能支援

- 「第63回博多どんたく港まつり」を開催。2日間で前年を上回る230万人の人出、パレードと演舞台の参加者は2万6千人を超え、コロナ禍前に戻りつつある。また、新たな取り組みとしてサブタイトルを公募し、市民の参加意識の高まりを促した。
- 博多の伝統芸能承継団体の活動を支援するため、博多伝統芸能振興会が主催となり、市内ホテル等で初のディナーショー形式「伝統芸能の夕べ」を2回開催。いずれも満席となり好評を博した。
- 地道な活動で福岡の魅力向上に貢献したヒト・モノ・コトを表彰する「Attractive City Fukuoka Awards2024（旧称：魅力あるまちづくりアワード）」を実施し、その活動を広くPRした。

〔主な取り組み〕

（1）地域の文化・伝統の保存と継承

- *「第63回博多どんたく港まつり」：令和6年5月3、4日開催、2日間で230万人の人出。670団体、約26,000人が参加
- *博多伝統芸能振興会主催のディナーショー「伝統芸能の夕べ」：令和6年9月3日、令和7年3月1日の2回開催／合計148名来場
- *博多伝統芸能振興館での事前公募型公演：年間21回開催、参加者合計375名／リクエスト型公演10回

（2）魅力あるまちづくりの推進

- *Attractive City Fukuoka Awards2024：令和6年12月2日開催。福岡市の魅力向上に貢献した4者を表彰
受賞者：福岡ソフトバンクホークス、インターナショナルメディアFukuoka NOW、人形師・中村信喬氏、博多あまおう苺

【第63回博多どんたく港まつり】



【ディナーショー「伝統芸能の夕べ」】



【Attractive City Fukuoka Awards2024】



組織基盤強化

- 会員事業者から寄せられた相談や直面する課題を集約して要望書として取りまとめ、国・福岡県・福岡市に提出。商工業者への支援策強化、経済・産業施策の充実、地域の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進、インフラ整備など多岐にわたる具体的な提言・要望を行った。
- 経営相談窓口や各種事業の利用を通じた入会推進に取り組み、950者が新規加入し、年度末会員数は19,568者となった。

〔主な取組み〕

(1) 会員企業の声に基づく政策提言

- * 「福岡市政に対する提言」：令和6年10月9、28日、福岡市の高島市長と福岡市議会・打越議長に提出。全45項目
- * 福岡市と福岡商工会議所との意見交換会：令和7年2月4日、高島市長はじめとした福岡市幹部と会頭・副会頭との意見交換会を実施
- * 「福岡県の中小企業・小規模事業者対策に関する提言・要望」：令和6年9月12日、服部県知事及び県議会、自民党県議団に提出
- * 「経済政策に関する要望」：令和6年7月17、18日、経済産業省・財務省・国土交通省・文部科学省に提出

(2) 支援力の向上

- * 会員企業の海外展開を支援するため、新たに「国際委員会」を設置
- * 令和6年9月、市内事業者への経営支援機能強化のため、南部オフィスを移転

【政策提言活動】



【会員数の推移】

